■2024年度 名古屋ファッション専門学校 自己評価報告書

評価点 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

大項目	評価項目	評価点	現状	課題	改善点	
I	教育理念・目標	1	学校理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	明確に定めている	特になし
		2	学校における職業教育の特色は明確であるか	4	学校基本情報に明確にうたっている	特になし
		3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	常に社会のニーズを踏まえた教育目標を設定している	特になし
		4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	オリエンテーション、オープンキャンパスなどを通じて周知している	特になし
		5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学科ごとの特色のあるカリキュラムにより方向づけられている	特になし
II	学校運営	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針は明確に策定されている	特になし
		2	運営方針に沿った事業計画は定められているか	4	運営方針に沿った授業計画を策定している	特になし
		3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	定期的な職員会議を開催し意思決定を行っている	特になし
		4	人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	4	整備されている	特になし
		5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	法人の理事会、評議委員会で実行されている	特になし

大項目	評価項目		評価点	現状	課題	改善点	
II	学校運営	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	整備されている	特になし	
		7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	シラバス・ホームページにより適切になされている	特になし	
		8	情報システム化等による業務効率化が図られているか	4	情報システムの担当者を配属し、集中管理し効率化を図っている	特になし	
III	教育活動	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	策定されている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する	卒業生を含め業界で活躍する人材からの情報収集
		2	教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	明確にされている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する	卒業生を含め業界で活躍する人材からの情報収集
		3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	編成されている	特になし	
		4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		5	関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		6	関連分野における実践的な教育産業（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施している	特になし	

大項目		評価項目	評価点	現状	課題	改善点	
III	教育活動	8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	インターンシップ等の機会を通じて取り入れている	特になし	
		9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	明確になっている	特になし	
		10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科の特性に応じ、必要な資格を体系的に位置付けている	特になし	
		11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	実務経験のある教員、講師を確保している	特になし	
		12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	自身の専門業務を行いながら本校の教育に携わる外部講師を多く確保している	特になし	
		13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	外部で開催される技術研修、校内での学生指導に関する研修を行っている	特になし	
		14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	外部で開催される技術研修、校内での学生指導に関する研修を行っている	特になし	
IV	学修成果	1	就職率の向上が図られているか	4	専任の担当者を置き、就職率の向上を図っている	特になし	
		2	資格取得率の向上が図られているか	4	通常授業内以外に専科、補講を設け、資格取得率の向上に努めている	特になし	
		3	退学率の低減が図られているか	3	担任、教務などが保護者を含めきめ細かく対応しているが一定数の退学者がいる	心因性の要因で学校生活が続けられない学生に対する方策を考える	学内カウンセラーの活用

大項目	評価項目	評価点	現状	課題	改善点		
IV	学 修 成 果	4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	在校生の活躍については随時SNS、学校案内で講評している。企業と連絡を密にし、就職した学生の動向を把握している	特になし	
		5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	企業説明会やセミナーの際の来校や、卒業生のSNSフォローなど、学生のキャリア教育の向上に活かしている	特になし	
V	学 生 支 援	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	整備されている	特になし	
		2	学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任、場合により教務、校長が面談に対応している	時間の許す限り対応はしているが、メンタル面の問題を抱える学生も多い	学校法人の設置しているカウンセリング制度利用を促している
		3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金、専門実践教育訓練給付金制度などで対応している	特になし	
		4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回健康診断を行っている	特になし	
		5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	学生の参加するファッションショーなどに、学校の備品、施設の貸し出しなどを行っている	特になし	
		6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生会館の紹介により行っている	特になし	
		7	保護者と適切に連携しているか	4	必要に応じ、書面、メールを用いて連携している	特になし	
		8	卒業生への支援体制はあるか	3	施設、備品の貸出、業務内容の広報、SNSなどによる情報拡散で支援している	同窓会による支援体制の強化を図りたい	

大項目		評価項目	評価点	現状	課題	改善点	
V	学生支援	9	社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか	2	社会人の入学生がごく少数のためあまり整備されていない	特になし	
		10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	10校余りの高校へ出張授業などを行っている	体制を整えさらに多くの高校と取り組みを行いたい	
VI	教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	整備されている	特になし	
		2	学外研修、海外研修、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4	整備している	特になし	
		3	防災に対する体制は整備されているか	4	整備されている	特になし	
VII	学生募集	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	オープンキャンパス、入学相談会、高校訪問等により実施している	特になし	
		2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	伝えられている	特になし	
		3	入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	4	行われている	特になし	
		4	学納金は妥当なものとなっているか	4	妥当と思われる	特になし	
VIII	財務	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	安定している	特になし	
		2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	妥当である	特になし	
		3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	適正に行われている	特になし	
		4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	整備できている	特になし	

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
IX	法令等の遵守	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	適正に運営されている	特になし	
		2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	適正に対策している	特になし	
		3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	行っている	特になし	
		4	学校自己評価の結果を公開しているか	4	学校サイト上で公開している	特になし	
X	社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地場産業や商業施設などとのコラボレーションイベントなどを随時行っている	特になし	
		2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	必要であれば支援しているが把握しきれていない部分もある	特になし	
		3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	行っている	特になし	
XI	国際交流	1	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	4	取られている	特になし	
		2	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	3	特に積極的には行っていない	特になし	
		3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	整備している	特になし	
		4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	国内外のコンテストに応募するなどして取り組んでいる	特になし	

2024年度 学校関係者評価委員会報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会出席者（順不同・敬称略）

株式会社織研新聞社名古屋支社 名古屋業務部課長 久保寺恭稔
駐日タンザニア大使館商業文化交流中部地区 名誉代表 清水邦子
D h a l 代表 水谷美知
名古屋ファッション専門学校 校長 佐藤弥生
名古屋ファッション専門学校 副校長・教務主幹 桐谷里砂

2. 学校関係者評価委員会開催日時

2024年11月25日（月）10時

3. 参考資料

- ① 学校関係者評価委員会報告書
- ② 2023年度 自己評価結果
（教育理念・目的・人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、
学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献）
- ③ 2023年度 学内外行事記録
- ④ 2023年度 クラス別就職状況

4. 報告内容

上記資料送付をご覧いただいたうえ、各委員様それぞれのお立場から本校へのご意見をいただきました。（別紙）

(別紙)

I. 教育理念・目標

現状と課題	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学修内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく修得できるような授業計画を立てている。時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 コロナ禍の影響は薄れつつあるが、授業内でのグループワーク、学校行事や集団行動の際に他となじめない傾向を持つ学生も一定数いる。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	人間関係の築き辛さが様々な面で感じられる。コミュニケーション能力が十分といえる人材は職場でも多くはない。もっとメンタルを強くする方法は無いのかと思う。また、専門分野に関しての基礎知識も、もっと掘り下げていただきたい。
<学校> 改善案など	学生が自ら物事にあたり、問題解決策を考えられるよう、意識改革を行う必要がある。シラバスや学校行事の見直しを実施し、自らの学習内容を把握し、自己研鑽できるような学生を育てたい。

II. 学校運営

現状と課題	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	出願数が増加する傾向にあるなど、18歳人口の減少が顕著な状況においても良い傾向がみられるということは、今までの御校の姿勢、運営のかじ取りが間違っていなかったということだと感じる。
<学校> 改善案など	今後もファッション業界の動向をしっかりと捉え、学校運営の方向性を策定したい。

III. 教育活動

現状と課題	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などに積極的に参加している。教員は専門に応じて複数回研修などに参加し、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。 授業においては実技、実習を中心に修得するという専門学校の特徴を生かした学修の場を設けている。 アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討する体制を整えている。
-------	--

<p><学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など</p>	<p>会社が縫製を依頼している企業様に聞いたが、従来のアパレル製品ではなくイベント用の衣装の縫製などの割合が高まっている。アパレルやファッションといったジャンルに含まれる業務内容が従来とは少し異なってきていると感じた。</p> <p>卒業後、企業に就職せず自身で仕事をとって生計を立てていくというのは非常に覚悟がいるかと思うが、そういう卒業生を輩出する教育内容は素晴らしいと感じる。</p>
<p><学校> 改善案など</p>	<p>学生一人一人の状況も違うので、グループでの作品制作などでコミュニケーションをとりながら作品を完成させることが難しくなっているように思う。解決策の一つとして、教職員より身近な存在である企業に勤務している卒業生に、企業、業界の実情を踏まえながら学生にレクチャーをしていただく機会を多く設けた。教員側も授業の内容や進め方に多くのヒントが得られた。</p>

IV. 学修成果

<p>現状と課題</p>	<p>本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り各学年の「就職特別講座」の実施や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。</p> <p>就職率は下記のようになっており、就職あっせんを希望する学生に対しては毎年目標の 100%の結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。</p> <p>①全卒業生対比 ②学校からの就職斡旋希望者対比</p> <p>2023年3月卒業生→① 92.3 %、② 100 %</p> <p>2022年3月卒業生→① 91.0 %、② 100 %</p> <p>2021年3月卒業生→① 95.7 %、② 100 %</p> <p>資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。</p>
<p><学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など</p>	<p>人手不足が話題になっているが、アパレル企業の中にも給与や福利厚生を充実させているところ、その部分には目を向けずコストを下げることに必死なところがある。その中で働く新入社員の方たちが、ある程度は会社の歯車として動くことを求められることは仕方がない。ある企業の経営者に伺ったが、不満があり上司に抗議してくる社員はまだかわいい方で、ある日突然辞めてしまう。</p> <p>結局どうやって目的意識を持たせ、それを継続させるかではないか。</p> <p>企業にも SDGs の目標設定が浸透しているが、環境に配慮した商品がメインとなって会社を支えることができるかという点も難しい。アメリカでもトランプ大統領の再選が環境問題に対する動きを大きく変えるだろう。国際的な紛争やエネルギー</p>

	<p>一の問題とかすべてが絡んでくる。自国ファーストはヨーロッパもアメリカも変わらないのでは。そのような問題を抱える企業に卒業生を送り出す際に、何が彼らの武器になるのか。学生を送り出す専門学校さんで、これ以上お話しするとどうしてもネガティブな方向になってしまう。</p> <p>今社内に 20 代前半から 40 代半ばまでのスタッフがいて、社労士さんに会社の不満をぶつけてもらう、というのをやった。自分の中では、自由度があってなかなかいい会社なのではと思っていたが、結果を聞いて驚いた。社員からは何も教えてくれないという不満が多く上がった。今の子たちは、教えてくれないことがクレームになってしまう。教育システムがなっていないみたいなのを言われた。自分で考えて何かするということを教えられていないのではないのか。</p> <p>ディスカッションして決めるとか、交渉するとか、そういう経験の機会が無い。小さな頃から、常に上から決まったことを提案されたり、もしくはこの中で決めて、という言われ方しかしていないかもしれない。自分で考える力を身につけさせていただきたい。</p>
<p><学校> 改善案など</p>	<p>引き続き就職実績は懸念したほど悪くは無かったが、委員の方々にお聞きしたようにアパレル、ファッション業界の人材として求められる人物像、知識や技術以前の問題として、在校生に自主性、自身で考えて行動する力が足りないと感じるところが多い。授業カリキュラムの中で、いかに上記のような力を持った学生を育てるかを考えたい。</p>

V. 学生支援

<p>現状と課題</p>	<p>入学から卒業まで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。</p> <p>就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、校内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。</p> <p>中途退学者率を減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。</p> <p>学生の経済的支援としては、奨学金を必要としている学生が申込みの機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援制度などを随時説明している。</p>
<p><学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など</p>	<p>社員の家庭でなにかあったり、友人とうまくいってなかったり、ちょっと喋り辛い状況になったときに本人に現れる「乱れ」のようなものに気付くことがある。学生の変化に気付くことは重要だと思う。</p>

	カウンセラーの導入は有効だと思うが、まずカウンセラーに自分から予約をしたり、相談室に行くという行動もかなりハードルが高いのではないかな。
<学校> 改善案など	就職に向けての訓練の場として、自主性、協調性が求められる専門学校での状況になじめない学生が一定数いる。普段人と接する際の注意事項など、ごく基本的なことを改めて学ばせ、そこから徐々にそれぞれの世界を広げられるよう発展させる必要があるのではないかと感じる。

VI. 教育環境

現状と課題	縫製やドレーピング、パターンメイキングなど、ファッション造形に関する備品（ミシン、特殊ミシン、アイロン、ポディなど）やIT機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っておりそれらのメンテナンスにも配慮しているが、一部に経年劣化のため買い替えが必要な備品がみられる。 校舎は10年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の清掃は専門業者により行き届いており、清潔な教育環境が整っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	他の専門学校と比較しても設備的に見劣りするところは感じられない。 IT設備や授業をするための備品なども整えられており、学生が安心して学べる教育環境だと思う。
<学校> 改善案など	引き続き感染症対策としての清掃、消毒を行い清潔な環境を整えるとともに、毎年パソコン教室や実習用備品の整備をするなど、ファッション業界でも進むDX化に対応できる人材育成の環境を整えたい。

VII. 学生募集

現状と課題	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため意識の薄い教員もいる。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内（冊子）、WEBサイト、SNSなど広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。 入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	コロナの影響で、学生募集についての環境も、一気に大きな変化が起こった感がある。オンラインでのオープンキャンパス、高校へ出向いての出張授業など今まで試みたことのない手法を取り入れ、手ごたえを感じている。 高校生対象のデザイン画コンテストの入選者が入学に繋がった実績も増えてきているので、更に広めていきたい。

VIII. 財務

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校法人中西学園の擁する学校ということで、信頼感は大きく感じる。
<学校> 改善案など	さらに財務状態を良好にするため、学生募集に力を入れたい。

IX. 法令等の遵守

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正にも速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	今後も現状を維持したい。

X. 社会貢献・地域貢献

現状と課題	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、教育上大切なことと捉えて推進している。地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通して関りを深めているが、2023年度はコロナの影響で一部のイベントが中止となり残念だった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学生と地域を結びつける試みは継続して欲しい。 素材産地での残反を使用したコラボレーションなど、各地でSDGsを踏まえた企業と学生のコラボレーションが広がっている。御校へのコラボレーションの依頼も今後拡大するのではないかと。
<学校> 改善案など	時代の変化を敏感に捉え、グローバル、ローカルな視点をもって、できるだけ多くの社会貢献、地域貢献行事に取り組みたい。

XI. 国際交流

現状と課題	少数の留学生が入学を希望する場合がある。会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 ファッション流通科の授業の一環として行っている「タンザニアフィリア」とのコラボファッションショーは、2023年度も残念ながら中止となった。また恒例行事である海外研修旅行は、参加希望者が少なく2022年に引き続き催行中止となった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	2024年度の6月にはタンザニアとの交流イベントとして、千種区のメルパルクホールを会場にしたファッションショーを開催し盛況のうちに終了した。学生の皆さんが、カンガ（東アフリカで用いられる1枚布）に触れて、それを使ったコーディネートをされる時に、実際の布を見て、触って、こういう発想のある国があると理解していただけると嬉しい。今年はフォーマルでドレスリーなコーディネートを多く登場させ、このような発想もあるのかと驚きがあった。ゆくゆくは来日したアーティストとの交流なども行いたい。
<学校> 改善案など	留学生の受け入れについては、希望者があれば本人の資質、言語能力などを見極め、できる限り対応したい。 今後も可能な限り多様な国際交流に取り組み、学生の視野を広げる機会を多く持ちたい。

<まとめ>

本学について皆様より貴重なご意見をいただきました。2023年度はコロナ禍はほぼ収まったものの、その折に受けた精神面での影響が、2024年度の時点で学生にまだまだ大きく影響しているのではないかとこの懸念は委員の方共通の関心事だと感じました。

学校の授業や学校生活での経験が、知識や技術を身に付けるだけでなく、社会で働くために必要な人間力を育むことができるようにしていく必要を感じました。今後、教職員の意識変革、学生の精神面での問題に対応するためのセミナーの受講や、専門の学内カウンセラーの積極的な活用を進め、改善していきたいと思います。

次年度の学校運営について、頂戴したご意見に基づき早々に運営計画をまとめる学内会議を設け、どのような人材を育てることを目標にするのかを最優先とし、その他の目標についても計画実施のプラン作り等の取り組みをする予定です。